

～地元農業者による荒廃農地の解消～

栃木県壬生町

平地農業地域

取組主体： 地元農業者(認定農業者)

取組開始時期： 平成29年4月

解消面積：0.22ha(平成30年7月時点)

導入作物： 大豆

1. 取組のきっかけ・経緯

取組主体である農業者は、平成13年頃に新規就農者として、農業経営を開始するとともに、耕作農地の拡大を積極的に行い、荒廃農地の解消にも取組む等、町内の農業発展に大きく貢献している。

自作農地の周辺(壬生町羽生田)に高齢化による離農などが原因の荒廃農地が存在していたことから、土地の集団化を図るため地権者と相談し、県単独事業の「遊休農地解消支援事業」を活用して、農地の再生作業を実施することとなった。



2. 取組内容

県単独事業の「遊休農地解消事業」を活用して、荒廃農地に繁茂している雑草の除去後、トラクターを用いて深耕(耕起深35cm)、荒耕起を行った。また、再生した農地の試料を採取し、PH測定などで土壌を分析。土壌改良材(苦土炭カル)の散布による、農地の改良も実施した。

3. 今後の課題・予定など

今後も荒廃農地解消を通して、農地の集積を進めていく予定。また、耕作農地の拡大を行いながら、周辺の農地と一体的な利用ができるよう、地元・土地所有者との連携を図っていく。

4. 活用した補助事業

(県)遊休農地解消支援事業

(補助内容:平成29年度、0.22ha、刈払、集積、耕起、土壌改良等)



再生前



再生後

～地元企業による荒廃農地の解消～

栃木県足利市

平地農業地域

取組主体:(株)大麦工房アグリ

取組開始時期:平成29年8月

解消面積:2.4ha(平成29年8月時点)

導入作物:はだか麦(ビューファイバー)

1. 取組のきっかけ・経緯

地元で洋菓子の生産・販売を手掛ける(株)大麦工房ロアが、自社で製造・販売している洋菓子等の原料となるはだか麦(高付加価値大麦ビューファイバー)の自社生産を目指し、子会社として農業生産法人の(株)大麦工房アグリを設立した。

はだか麦の栽培候補地を探していたところ、40年以上放置されていた荒廃農地が候補に挙がり、地元農業委員の協力のもと地権者への説明会を経て解消作業を行った。



2. 取組内容

農地一帯は全体的に草が繁茂し、治安や虫の発生が課題となっていた。一部には4メートル以上の樹木が生えていたため、県単独事業の「遊休農地解消事業」を活用して土木業者に抜根・整地作業を委託。その後、公図に沿って測量を行い境界を確定。農業生産法人の(株)長谷川農場に委託し、再生農地にはだか麦を作付けした。

収穫したはだか麦は、取組主体の親会社である(株)大麦工房ロアが全量買い取り、自社製品の原料に使用している。また、平成30年からは水稻の作付けも開始している。

3. 今後の課題・予定など

現在作業委託をしている(株)長谷川農場の負担を減らすために、自力での営農に向けた人材、知識、設備等の採用、整備を計画している。今後市内に点在する荒廃農地の解消に向けた地元農家との連携、ネットワーク作りを進める予定である。

また、はだか麦の需要の更なる掘り起しと、生産コストの抑制も必要。さらに、はだか麦の効能を啓発するイベントを圃場において開催する予定である。

4. 活用した補助事業

(県)遊休農地解消支援事業

(補助内容:平成29年度、対象面積1.06ha、耕作放棄地解消作業費経費)



再生前



再生後